

<授業実践5>「論理国語」読むこと

1 単元名

ChatGPT が生成した要約文を基にして、文章の内容や構成を的確に捉えよう。

2 指導目標

(1) 単元の目標

- ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。([知識及び技能] (1)のイ)
- ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができる。([知識及び技能] (1)のウ)
- ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。([思考力、判断力、表現力等] B「読むこと」(1)のア)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 言語活動

ア 言語活動

ChatGPT が生成した文章の要約文を基にして、文章の内容や構成を的確に捉える活動。

イ 言語活動のねらい

ChatGPT を用いて生成した要約文は、不自然な表現が散見する。さらに、それらしい内容ではあるが、要旨を捉え切れていない場合がある。特に、筆者が論証するために通常とは異なる特定の意味で用いる語句の意味を読み外している ChatGPT は要約文の手がかりとして有効である。だが、生成文に誤りがある。そのことに留意して内容や構成を的確に捉える方法を習得させたい。

(3) 教材

ア 教材 せちやまかく 瀬地山 角 「女性／男性だから〇〇」(『新 論理国語』三省堂)

イ 教材観

性役割分業について考える評論である。通常とは異なる特定の意味で用いている語句や、読解の鍵となる語句を理解することが、本文の要約に必要なことが分かる教材である。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

2023 年は多種多様な生成 AI が活用され始めた。ChatGPT はその顔と言える。そこで、ChatGPT との対話を生徒に見せることで、言語活動に興味をもたせた。簡単な指示文を出せば、まるで大学教授と話しているように的確な答えが返ってくる。回答の精度は、それまでの BoT とは一線を画す。しかし、生成 AI の回答は限界がある。ChatGPT の生成した要約文について、グループで話し合っ修正点の気付きを得られるようにした。その気付きを基にして、文章の内容や構成を的確に捉えることができるよう心がけた。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 	<p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p>	<p>ChatGPT が生成した文章の要約文を基に、文章の内容や構成を的確に捉える活動を通して、粘り強く、学習課題に沿って、論理の展開や要旨を把握しようとしている。</p>

(2) 評価方法

ア 知識・技能

ワークシートの記述によって評価する。

イ 思考・判断・表現（読むこと）

ワークシートの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
通常とは異なる特定の意味で用いている語句を理解し、文章の内容や構成を的確に捉えて要約文を書いている。	要約文について ChatGPT の誤りを正確に訂正しつつ、文章の内容や構成を的確に捉え、要旨を把握して書いている。その上で ChatGPT の提示する要約文にとらわれることなく、より正確に内容や構成を捉え、論点を明確にして要約文を書いている。	要約文について ChatGPT の誤りを正確に訂正しつつ、文章の内容や構成を的確に捉え、要旨を把握して書いている。	要約文を書いている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

要約文の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
ChatGPT が生成した文章の要約文と自分の要約文を読み比べる活動を通して、粘り強く、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉えようとしている。	要約文について、ペアで行った推敲を基にして内容や構成を的確に捉えて書こうとしている。その上で、相互評価表を参考にして、改めて本文の要旨を捉え、論点を明確にしようとしている。	要約文について、ペアで行った推敲を基にして内容や構成を的確に捉え、要旨を把握しようとしている。	要約文について、ペアで行った推敲を基にしようとしている。

4 単元の指導計画（配当時間3時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	◇観点□点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて

<p>第1次 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 「女性／男性だから○」を授業者が範読する。 授業スライドを用いて、筆者の指摘する「自由」や「異質平等論」について、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読みながら、難解な語句や表現に印を付けさせ、適宜説明をする。 通常とは異なる特定の意味で用いている語句ということを理解する。 *接続詞や指示語に注目させる。 ペアを作り、代表者がワークシートIを提出する。 *本文中にある事例やグラフなどを手がかりにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (知) □ 「記述の点検」(ノート) *読めない漢字や意味が分からない語句をチェックさせ、辞書で調べさせたり、解説したりする。 ◇ (知) □ 「記述の確認」(ノート) *「この場合の」という言葉に注目させる。 ◇ (思) □ 「記述の確認」(ロイロノート・スクール(株式会社LoiLo、以下「ロイロノート」と表記)のワークシートI) *ペアの助言をもらいながらロイロノートの提出箱に提出する。
<p>第2次 (1時間) 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ChatGPT が生成した要約文を各自で通読する。 ペアで、ChatGPT の誤っている部分を確認する。 要約文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法的なミスや、内容の誤りがあることを説明する。 ペアでどこが間違っていて、どう直せばよいか確認する。 *通常とは異なる特定の意味で用いている語句を、正確に説明できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (思) □ 「記述の確認」(ロイロノートのワークシートII) *ペアの助言をもらいながらワークシートを完成させる。 ◇ (思) (態) ■ 「記述の分析」(ロイロノートのワークシートIII) *再度説明をしたり、詳細なコメントを書いたりする。
<p>第3次 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互で要約文を読み合う。 相互評価表を用い互いの要約文を確認する。推敲し、再度要約文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常とは異なる特定の意味で用いている語句が的確に説明しているかどうか注目させる。 相互評価表などを基に再考させ、粘り強く取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (態) ■ 「記述の分析」(要約文) *相互評価表から、推敲するポイントを見つけることができるように声を掛ける。

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

通常とは異なる特定の意味で用いている語句を理解し、文章の内容や構成を的確に捉えて要約文を書くことができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

通常とは異なる特定の意味で用いている語句を理解し、文章の内容や構成を的確に捉えて要約文を書いている。

(3) 本時（全3時間中の2時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・ 本時の学習内容を知る。	①単元の目標と言語活動について確認する。	①ChatGPT の生成文に誤りがあることを説明する。
展開 (40分)	・ ペアで ChatGPT の誤っている部分を確認する。 ・ 要約文を書く。	②間違っているところを指摘し、どう直すかを書く。 ③ペアで行った修正を基に、要約文を書く。	②指示語を手がかりにして、本文の内容と照らし合わせる。ロイロノートのワークシートⅡを使用する。 ③ ・ 通常とは異なる特定の意味で用いている語句を的確に説明するように指導する。 ・ 要約のやり方(要点を捉えて接続詞を的確に使用する)を指導する。 ・ ChatGPT に指示した、「性的指向」「性別からの自由」「異質平等論」の三つの言葉を用いて二百字程度で要約する条件で行う。 ・ ペアで行った修正を基に、粘り強く取り組ませる。
終結 (5分)	・ 本時の内容を振り返る。 ・ 次時の内容を知る。	④作った要約文を、改めて読む。生徒相互で要約文を読むことを確認する。	④本時の目標に即した活動ができたか、またその達成度について振り返る。要約文を回収し、ループリックを用いて「記述の分析」により評価する。

6 研究の実際と考察

(1) ChatGPT のバージョン

使用したのは GPT-3.5、つまり無料版である。有料版の GPT-4 で同じ活動をした場合、生成される答えは違うはずだ。GPT-3.5 より的確で、最新の情報を含み、質問者の意図にあった回答になると予想できる。しかし、この時点では県から予算が下りておらず無料版を使用した。

(2) 生徒の反応

授業の始めに、「ChatGPT を使ったことがあるか。」という質問を教室で投げかけた。挙手をしたのは 2、3 人程度であった(令和 5 年 9 月下旬時点)。本校は令和 5 年 7 月中旬に、生成 AI を使用する際の

注意事項を生徒に伝えるとともに、保護者からの承諾を得た。つまり、9月の時点でChatGPTの周知はできていたはずである。しかし、知っていても使うまでの心理的なハードルはあったのだろう。使ったことがない生徒が大半だということを知り、まずはChatGPTと対話する様子を見せた。スクリーンに画面を映し出し、教員がChatGPTに人間関係に関する悩みを投げかけた。即時に、ある程度参考になりそうな答えを出してくる生成AIを見て、生徒の目が輝いたのが分かった。

次に本題である教科書の要約文を見せた。下に、そのChatGPT要約文を載せる。「性的指向」「性別からの自由」「異質平等論」の三つの言葉を用いて200字程度で要約せよ、という指示文を書いた。

ChatGPTからの回答は次の通りであった。

この文章では、性役割分業についての議論が性差別と結びつく問題であると指摘されています。性別からの自由と性的指向の認識が重要であり、男女の平等は単に平等だけでなく、性別からの自由も含むべきだと主張されています。また、異質平等論についても触れられ、これが性別に固定的な役割を強制する可能性があるとして指摘されています。性別に基づく能力や役割は個人によって異なるため、性別からの自由が尊重されるべきだとの立場が述べられています。この自由を尊重することで、男女平等がより意味のあるものになり、性別に関わらず個人の能力が発揮される社会を実現するための一歩とされています。

最初は「どこが間違っているか分からない」と言っていた生徒たちだが、ペアを組んでじっくり修正をすると段々と「粗(あら)」を見つけていった。以下に、生徒が見出した修正ポイントを挙げる。

(3) 修正ポイントを明確にする

ロイロノートにあるシンキングツールの一つ「フィッシュボーン」を使用した。①語句の使い方、②文法、③文の構成、④気付いたこと・感想・メモと四つのポイントで修正を行った。語句の使い方とは、ChatGPTに指示した、「性的指向」「性別からの自由」「異質平等論」の語句の使い方である。②文法とは、生成AIならではの不自然な日本語を指す。③文の構成とは、全体的な文章の書き方についてである。この説明を生徒に行ったことで、修正のポイントが見えてきたと考えられる。修正ポイントを明確にせず「間違っているところを見つけてみよう」と指示したとする。生徒からすると「何となくおかしい気がするけど、どこが間違っているか分からない」と思ってしまうだろう。

生徒が指摘したのは大きく三つである。まず大きな問題点は、結局何が言いたいのか分からないということだ。つまり、筆者の主張が理解しがたいという点である。ChatGPT要約文では、情報の重み付けがされておらず、箇条書きを単純に文章化した感が否めない。次に、語句の説明がされていないということだ。特に「異質平等論」は、辞書に意味が記載されていない言葉であり、本文でどのような意味で用いられているのか説明を要する。「性的指向」においても同様だ。近年LGBTQという言葉が使われ、性の多様化が認められようとしている。このような背景を語句の説明に組み込む必要がある。最後に、他人行儀な書き方をしている点だ。「～されています」という文末表現が4回も出てくる。「人間味がない」とコメントするものもあった。実際の修正シート(ワークシートII)は参考資料1を参照。

(4) 要約文を書く活動について

ChatGPT要約文を参考にして要約文を書いた。ほとんどの生徒が、生成AIの要約文について欠点を見つけることができていた。しかし、実際に要約文を書くという活動は違った難しさがあるようだ。修正シートと本文をにらめっこしながら、要約文を作る活動に苦心していた。そこで活動の最中に机間巡視を行い、できるだけ多くの生徒と対話をした。「異質平等論」についてよく理解できていない生徒に

は、前次の授業でまとめたことを振り返るように促した。「性的指向」については「LGBTQ」といった具体例を出せるように提案した。そして最大の問題である、作者の主張を明確にできていない点を解消するためにどうしたらよいのか、共に考えた。「この文章で筆者が言いたいことを一言で表すと何だろうか」と生徒に質問したとする。それに対して生徒は「性別によって差別されることはいけない」と答えることができる。「その主張を明確に言えるようにしましょう。文の書き出しとかは ChatGPT を参考に書いていけばよい」とアドバイスを送った。対話を行った後は、要約文を書くのに苦労していた生徒たちも ChatGPT 要約文というたたき台を基にして書けていた。

ChatGPT 要約文を先に見せたことで、逆に要約しにくくなっているのではと感じた。そこである生徒に「ChatGPT の要約文があると、要約の邪魔になる？」と尋ねた。その生徒は「邪魔にはならない。むしろあった方がよい。要約を書く手がかりになるから」と言っていた。別の生徒も「ゼロから要約するのはしんどい。ChatGPT 要約文があると助かる」と同様のことを言っていた。今後の言語活動において、心理的にハードルが高いゼロから一を生むという部分を、生成 AI に任せればよいのではないか、という展望をもった。

ループリックの B 基準のポイントは「ChatGPT の誤りを正確に訂正しつつ、文章の内容や構成を的確に捉え、要旨を把握して書いている」ことだ。下に、B 評価作品の例を載せる。

「男は仕事・女は家庭」といった、個人の能力とは関係なく、男性・女性という性別を理由として役割を分ける意識をもっていることという性役割分業についての議論が性差別と結び付く問題である。性別からの自由と性的指向の認識が重要であり、男女の平等は単に平等だけでなく、性別からの自由は、LGBTQ なども含むべきだと考える。また、「男と女は違うけれど平等だあるいは「男女は違った役割を担っていても対等である」という考え方である異質平等論が性別に固定的な強制をする可能性がある」と主張している。

性別に基づく能力や立場は人によって異なるため性別からの自由が尊重されるべきだとの立場で筆者は述べている。

※下線は指導者が引いた

「異質平等論」について「男女は違った役割を担っていても対等である」と語句の説明をした上で、「性別に固定的な強制をする可能性がある」と指摘している。また「性的指向」については、LGBTQ という具体例を出して語句の説明をしようとしている。文末表現も工夫が見られる。そして筆者の主張について、「性別に基づく能力や立場は人によって異なるため性別からの自由が尊重されるべきだ」と説明している。ChatGPT の要約文を改善しつつ、本文の内容や構成を的確に捉え、要旨の把握をしようとしている。一方で、文章が冗長になっている。今回の指導事項は「読むこと」(1)ア(構造と内容の把握)であり、評価の対象ではない。しかし、ChatGPT 要約文に引っぱられた結果、本文を正確に読み取ることができていない。具体的には「性的指向」の説明が不十分である。また「性別からの自由」とは何なのか、語句の説明ができていない。

ループリック A 基準のポイントは「ChatGPT の提示する要約文にとらわれることなく、より正確な内容や構成」を読み取って論点を明確にしていることだ ChatGPT の文章の書き出しは「(この文章では、)性役割分業についての議論が性差別と結び付く…」となっている。ここにとらわれずに、より正確な読解をしていることが分かる A 評価作品例を載せる。

女、男など個人が変えることのできない属性で差別することはいけないことだ。今は体の性別だけでなく、心の性別、つまり性的指向も「属性」の対象に含まれ始めている。

男女の平等は、性別に関わりなく能力を発揮できる性別からの自由という概念が不可欠である。また、女と男は違うけど平等という考えの異質平等論は、性別からの自由がなく、性役割を固定してしまう。能力は性別によってではなく、個人で異なるため、性別からの自由は尊重するべきだ。

※下線は指導者が引いた

「性的指向」を理解するためには、「属性(女、男など個人が変えることのできないもの)」を捉える必要がある。その「属性」には、身体性だけでなく心の性別、つまり「性的指向」も含まれる。さらに、「性別からの自由」の説明として「性別に関わりなく能力を発揮できる」と説明しており、正確に読み取れていることが分かる。「能力は性別によってではなく、個人で異なるため、性別からの自由は尊重するべき」という論点が明確になっている。より正確な読解ができていると判断してA評価とした。

7 研究の成果と課題

ChatGPT を要約に使うのは有効な手段である。要約をさせた後は、情報の重み付けを人間の手で行う必要がある。今回の場合は ChatGPT 要約文では筆者の主張がぼやけるということが分かった。また ChatGPT は通常とは異なる特定の意味で用いている語句を正確に読み取ることができない ChatGPT 要約文はたたき台として認識するべきである。これらの点を留意すれば、生成AIは、文章の内容と構成の的確な理解をする助けになるはずだ。

この単元では、前もって教員によるお膳立てをした。お膳立てとは読解の手がかりとなるキーワードを教員が挙げて指示文を書いたことだ。(『性的指向』『性別からの自由』『異質平等論』の三つの言葉を用いて200字程度で要約せよ)という指示文)この「キーワードを挙げる」という最初の一步を、生徒が(またはChatGPTが)やってもよいのではないか。ChatGPTの活用法について課題が残った。

令和5年度は生成AI元年と呼ばれるだろう。今回は要約をするだけに留まったが、今後も研究を重ねて、言語活動を行う際の効果的な使用方法を探る。